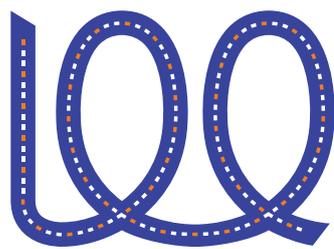


池袋学 特別講座

東上線 開業



周年 記念

これからも、ずっと、あなたの始発駅
— みんなの東武東上線100周年 —

シンポジウム

2014年5月1日、おかげさまで東武東上線は100周年を迎えました。開業100周年を記念し、立教大学と東京芸術劇場の連携協定に基づく『池袋学』講座にて特別シンポジウムを開催いたします。東上線の歴史秘話や池袋の街との関わりなどをもとに『東上線×池袋』の未来を語る貴重なお話が飛び出します。どうぞ、ご参加ください。

基調講演：
花上嘉成氏
(東武博物館名誉館長)



こんなにおもしろい東上線100周年秘話 ～東武東上線100年と池袋のこれから～

パネラー：渡辺憲司氏 (「池袋学」座長、立教大学名誉教授、立教新座中学校・高等学校校長)
高萩宏氏 (東京芸術劇場副館長)
渡邊裕之氏 (豊島区観光協会常任理事・副会長)
田中武氏 (東武東上線池袋駅長)

日時 2014年8月23日(土曜) 開演14時～16時(開場13時30分から)

会場 立教大学7号館 7101教室(ホール状教室)

参加定員 200名 参加費 無料

お申込み方法 東京芸術劇場HP、立教大学HP上の「お申込みフォーム」にご記入のうえ送信ください。

お問合せ 池袋学特別講座事務局 03-3954-0719

主催：立教大学、東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)、東武鉄道株式会社

後援：豊島区 協力：NPOゼファー池袋まちづくり、立教大学ESD研究所





- | | | |
|---------------------|---|---|
| 1914年(大正 3年) 5月 1日 | 東上鉄道として、池袋～田面沢(たのもざわ・現在の川越市～霞ヶ関間に位置)間33.5km9駅で開業 | |
| 1920年(大正 9年) 7月27日 | 東武鉄道と東上鉄道との合併を登記 東武東上線となる | |
| 1925年(大正14年) 7月10日 | 小川町～寄居間10.8km開通
現在の東上線(池袋～寄居)が全通 |  |
| 1929年(昭和 4年) 12月29日 | 川越市～寄居間443.4km電化(東上本線全線電化完了) | ▲川越機関庫(昭和初期) |
| 1932年(昭和 7年) 2月17日 | 越生鉄道 坂戸町(現坂戸)～高麗川仮駅(後に森戸と改称、現在の大家～川角間に位置)間5.0kmの貨物営業開始(越生線の前身) | |
| 1943年(昭和18年) 7月 1日 | 東武鉄道が越生鉄道を買収、東武越生線となる
現在の路線系統が完成(東上線・越生線) |  |
| 1949年(昭和24年) 4月 3日 | 東上線行楽特急「フライング東上号」を運転開始 | |
| 1959年(昭和34年) 4月 1日 | 東上線で蒸気機関車の運転を廃止 | ※昭和42年12月16日まで |
| 1972年(昭和47年) 7月11日 | 初の通勤用冷房車8000系が就役 |  |
| 1976年(昭和51年) 11月 1日 | 10両編成列車の運転開始 | ▲大和田町駅 現在の和光市駅(昭和29年) |
| 1986年(昭和61年) 10月21日 | 東上線の貨物営業廃止 | |
| 1987年(昭和62年) 8月25日 | 和光市～士木間5.3km複々線化使用開始
営団(現東京メトロ)有楽町線と相互直通運転開始(川越市～新富町間) |  |
| 2001年(平成13年) 4月 1日 | 東上線運行管理システムを使用開始 | 下板橋駅構内のSL39号(昭和32年) |
| 2005年(平成17年) 3月17日 | 小川町～寄居間でワンマン運転開始 | |
| 2008年(平成20年) 6月14日 | 東京メトロ副都心線と相互直通運転開始(森林公園～和光市～渋谷)
座席定員制列車「TJライナー」を運転開始
越生線でワンマン運転開始 | |
| 2009年(平成21年) 9月15日 | TJライナーチケットレスサービスを開始 | |
| 2013年(平成25年) 3月16日 | 東急東横線、横浜高速みなとみらい線と相互直通運転開始(森林公園～和光市～渋谷～横浜～元町・中華街) |  |
| 2014年(平成26年) 5月 1日 | 開業100周年を迎える | 成増駅(昭和39年) |

東上線開業100周年記念WEBサイト (<https://www.tj100th.jp/>) より

成増駅(昭和39年) ▶

東京芸術劇場×立教大学 連携講座 池袋学

池袋にすむ人、暮らす人、池袋で働く人、学ぶ人、池袋を訪れる人、みんなが参加できる池袋学を開講します。このまちの由来や歴史、文化、暮らし、町並みなど、様々な視点で池袋を語ります。そして、これからの池袋について考えます。2014年、シリーズ講座がいよいよ開講。文化、歴史、観光、環境と多彩なラインナップでお届けします。全講座制覇もよし、興味にまかせてつまみ食いするもよし、それぞれの楽しみ方を発見してください!

秋季講座のご案内 参加料: 1,000円/回 定員: 各 70名 会場: 立教大学 14号館 D201 教室

「池袋学と自由の発信～池袋周辺地域の文化土壌」 2014年10月1日(水) 19時～21時 講師: 渡辺憲司(立教大学名誉教授)

近代以前の武蔵野台地における池袋のイメージを考えながら、江戸時代における寺院文化・園芸文化、明治に至って開化される池袋周辺の郊外文化、さらに、個性的な教育方針を貫いた、帝国小学校・児童の村小学校・家庭学校・滝野川学園・成蹊学園などや、自由主義を標榜する、自由学園・立教大学・明治女学校などの学校群が集結するこの地域の教育風土について概観しながら、「池袋学」の可能性について考えます。

「都市観光としての池袋」 2014年10月29日(水) 19時～21時 講師: 安島博幸(立教大学 観光学部教授)

池袋は観光地でしょうか?我々は、アートを見たり、美食を楽しむためにパリやニューヨークに旅行します。それは都市観光であり、その中味は文化体験が中心です。他県から東京へは、スカイツリー、皇居、浅草など観光名所を訪れるばかりでなく、アート、音楽、映画、買い物、飲食のためにたくさんの観光客が訪れています。東京は日本一の観光地と言っても過言ではありません。さて、池袋は観光地として自らをどう位置づけたいのでしょうか。

「持続可能な未来を指向した池袋学をめざして」 2014年11月26日(水) 19時～21時 講師: 阿部治(立教大学 社会学部教授)

地球温暖化に伴う気候変動は各地で豪雨や竜巻をもたらしていますが、池袋などの都市部でも今後ますます深刻な問題となるでしょう。また、食料や医薬品、水などの生態系サービスを提供してくれる生物多様性は、都市住民にはなじみが薄いのですが、生存に必要不可欠のものです。低炭素社会や循環、生物多様性といった環境の視点から、池袋は今後どのような街をめざしていくのか。住民参加の街づくりを含めた身近な視点を踏まえて、持続可能な未来を指向した池袋学を構想します。

お申込み方法: 東京芸術劇場HP、立教大学HP上の「お申込みフォーム」にご記入のうえ送信ください。